「請願第 14 号」の不採択に関する 2 会派からの回答について

１．公明党のご回答について

当会が請願項目として「多摩地域の平均金額 230 円（市民 1 人当たり）を目標に」とした点を問題視されているようです。また、「総合的な視点で評価し運営すべき」という記述から、資料購入費だけを採り上げることに違和感を持たれたのかもしれません。

漠然と増額を求めるのではなく、当面の目標値を掲げて段階的な増額を求めることは、むしろ市民としての現状認識に基づく、きわめて妥当なものと考えます。後段については、図書館にとって資料購入費が命綱であることは、請願審査時の意見陳述でも力説した通りです。また質問の 2 点目に関しては、ご回答では触れられていません。

２．自由民主党のご回答について

主として以下の 4 点のご指摘がありました。

まず 1 点目は、「図書館費」（常勤職員の人件費を除く図書館総経費）が、多摩地域 26 市の中で第 12 位であり特に低額ではないというご指摘です。ただし、改めて確認させていただいたところ、「図書館費」というのは誤りで、「図書費」（資料購入費の中の図書費）のことだとのことでした。確かに、「令和 4 年度東京都公立図書館調査」（都立図書館）によれば、26 市の「図書費」の年間当初予算は、府中市の 75,768 千円を筆頭に町田市 34,454 千円は多い方から 12 番目です。しかし元々、規模の異なる市の図書費総額を比べたら、町田市は八王子市に次いで 2 番目に人口が多いのですから、もっと上位に入っても良いはずです。26 市平均の 37,016 千円を下回っていることからも、町田の図書費が他市に比べて相対的に低額であることは明らかです。

人口規模の異なる市を比較する際は、市民 1 人当たりで見ることが妥当であり、町田の市民 1 人当たりの図書費が 80 円と市平均 230 円の三分の一強である点こそが問題なのです。

2 点目は、全国の「同規模自治体」との比較です。

まず、「類似中核市と町田市」の「図書費予算額は第 10 位、1 人当たりでは第 12 位」という指摘ですが、これは『日本の図書館 2022』（日本図書館協会）の統計によって、中核市のうち「越谷市、船橋市などの 12 市と町田市を合せた 13 市で比較」されたものとのことです。ただし、この 12 市に越谷市、船橋市の他どこが含まれるのか不明で確認できませんでした。因みに、同統計によって人口 40 万人以上の市立図書館 26 自治体の 2022 年度「図書費予算額」を比較すると、町田市は多い方から 21 番目、少ない方から 6 番目です。

また「同規模自治体」の「図書館予算額」ですが、これは同統計から、尼崎市・町田市・藤沢市・東大阪市・西宮市・市川市・豊中市・松戸市・枚方市の 9 市（『町田の図書館 2021』に「他自治体との比較」として掲げられている人口 40～50 万人未満かつ自治体面積 100 ㎢以下の 9 都市（政令指定都市・特別区を除く）」を比較したものとのことです。しかしながら、「図書館予算額」（常勤職員の人件費を除く図書館総経費）だとするなら 9 市のうち第 4 位です。第 7 位というのは「図書館予算額」ではなく「図書費」の誤りではないかと思われます。「図書費」なら 9 市のうち 7 番目、つまり少ない方から 3 番目です。

3 点目は、利用者アンケートに「図書館で取り入れてもらいたいこと」として、「資料の充実」を抑えて、「静かに本を読んだり、過ごしたりできる場所」が第 1 位になっていることが指摘されている点です。これは、2022 年に実施された「町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査」の「問 29 今後、図書館で拡充してもらいたいことや、取り入れてもらいたいことは何ですか。

（複数回答）」に対する回答で、確かに「資料の充実」29.4%に対して、「静かに本を読んだり、過ごしたりできる場所」が 32.4%と第 1 位になっています。ただし、これはゆったり座る場所もないような小規模地域図書館の利用者の回答も含んでおり、「静かに本を読む場所」を求めていると解することもできます。これをもって市民が図書館に「資料の充実」よりも居場所としての図書館を求めている、と捉えるのは早計です。

他の質問項目、例えば「問 22 あなたが思う町田市立図書館の好きなところは、どんなところですか。（複数回答）」では、「いろいろなジャンルの本・新聞等がある」39.7%、「普段自分が読まない本に出合える」21.6%、「本を読む場所や気軽に過ごせる場所がある」20.7%が上位を占めています。さらに、「問 23 あなたが思う町田市立図書館の嫌いなところは、どんなところですか。（複数回答）」では、「本が古い」9.4%、「本を返却期限までに返すこと」6.7%、「読みたい本・新聞等がない」6.6%がトップ 3 です。他の統計「2020 年度町田市立図書館利用者アンケート調査報告書」を見ても、「来館の目的」「よく利用するサービス」に対して、「図書資料貸出・返却」「図書の貸出し（本・雑誌など）」が各館とも群を抜いて第 1 位であり、「今後、導入してほしい図書館サービス」では「電子書籍の導入」が第 1 位、自由記入欄には「蔵書が少ない（古い）」「新聞・雑誌を増やしてほしい」「予約多数の資料を多く購入してほしい」などの意見が特に多く見受けられます。このように、市民が図書館にまず期待するのは、「蔵書の充実」であることは論を俟たないところです。

4 点目として、町田市の個人貸出が多摩 26 市のうち第 1 位であり、大きな実績を上げている点を指摘しています。ただし、ここでも人口規模が大きな市は総貸出数が上位になることは当然で、市民 1 人当たりでみれば 26 市中多い方から 11 位ですから、特別に「大きな実績を上げている」わけではありません。

ご回答の最後にあるように、「図書費の増額だけが、町田市立図書館をより市民に親しみやすく、訪れたくなり、滞在したくなる図書館づくりに資するとは考えてはおりませんので、反対を致しました。」というのが、自由民主党会派として請願第 14 号を不採択とした理由のようです。

公明党にしても自由民主党にしても、これからの図書館は資料の充実だけではなく、もっと別の要素（例えば「サードプレイス」とか、「賑わいの創出拠点」といった役割）が重要だというお考えのように読み取れます。私たちもそうした役割を否定するものではありません。ただし、それは図書館が図書館として機能することが前提です。

この度の請願第 14 号は、他市に比べて桁違いに少ない市民 1 人当たりの図書費を、いくらかでも増額してほしいと言っているにすぎません。繰り返しますが、その理由は次の 3 点に集約されます。

①図書館がその本来の機能を十分に発揮するためには、蔵書の充実（最低限の資料購入費の確保）がまず何よりも重要であること

②多くの市民が図書館に第一義的に期待するのも、資料（本や雑誌等）の充実であること

③常に読みたい本や雑誌で溢れた魅力的な図書館こそ、「居場所としての図書館」や「賑わいを生む図書館」として機能すること

市民の皆さんは、果たしてどのようにお考えでしょうか。会宛てに率直なご意見をお寄せいただければ幸いです。

（文責：守谷）